

令和8年3月定例会委員会代表質問

通告2

文教厚生常任委員会

質問 ICT教育のさらなる推進と環境整備を

むねかた 宗形 かずき 一輝 委員

【質問：宗形 一輝 委員】

10番、宗形一輝でございます。文教厚生常任委員会、委員会代表質問としまして、ICT教育のさらなる推進と環境整備をについて質問させていただきます。

先日、町内の小学校を視察し、3・4年生の算数の授業を見学させていただきました。子どもたちはタブレットを活用していましたが、タイピング等で主体的に活用している様子をうかがうことはできませんでした。

また、教員が画面上に手書きで計算式を書いている場面も見られ、従来の黒板を活用した授業との違いを感じることはできませんでした。

一方、昨年10月に北見市立西小学校を視察し、GIGAスクール構想のリーディングDXスクール事業の先進的な取り組みを実際に拝見しました。北見市では、国の事業開始以前からICT教育の重要性を見据え、計画的に環境整備と教員研修を進めてきた結果、教員がタブレットを使いこなし、子どもたちがそれを自然に学び、自らの学びとして主体的に活用している姿が印象的でした。

授業においては、タブレットを単なる教材提示の手段としてではなく、児童生徒が自分の考えを整理しアウトプットし、他者と共有しながら学びを深めるための道具として活用しており、アナログとデジタルを適切に組み合わせた教育が実践されていました。

また、教育の質の向上と働き方改革の両立が図られている点も大きな成果であると感じ、当町でも取り入れるべき点と考えます。

これからの時代を生きる子どもたちにとって、ICTを活用しながら自ら考え表現し、協働する力を身につけることは不可欠です。そのためには、機器の整備にとどまらず、教員が安心してタブレットを活用できる環境づくりが重要であると考えます。



当町においても積極的に先進事例を研究し、教員がタブレットを効果的に活用しながら、子どもたちが主体的に学び、それを自らの力として身につけられる教育を、今後どのように取り入れていくお考えなのか、以下4点について質問いたします。

質問1 G I G Aスクール構想の本町での位置づけは

【質問：宗形 一輝 委員】

1点目、G I G Aスクール構想の本町での位置づけはについて質問させていただきます。

教育長は、令和7年度教育行政方針の中で、教育環境の充実として教育の情報化の推進については、子どもの教育に支障が生じないように整備促進に努めます。引き続きG I G Aスクール構想の下、子どもの能力を最大限引き出す個別最適化された学び、協働的な学びを実現するため、1人1台端末の利活用を推進すると述べられています。

今年度末になりましたが、本町においてこのG I G Aスクール構想がどの程度推進することができたのか、教育長の見解を伺います。

【答弁：教育長】

宗形議員御質問の1点目、G I G Aスクール構想の本町での位置づけはについて御答弁申し上げます。

本町におけるG I G Aスクール構想の推進状況につきましては、すぐにでも、どの教科でも、誰でも活かせる1人1台端末として、積極的に活用する段階は概ね達成できたと認識しております。

具体的にどのような場面でI C Tの活用が定着しつつあるかを申し上げますと、調べ学習におけるI C Tの活用は日常化し、情報の収集・整理・発言を通じて、子どもたちの情報活用能力が着実に身につけてきております。また、視覚的な資料提示が進み、学習内容のイメージを教室全体で共有しやすくなっている。さらには学習支援ソフトの活用により、自身の考えを分かりやすく表現し、他者の考えを即時に把握することも可能となり、協働的な学びが定着し始めています。

このように、基盤整備と日常的な活用の段階は概ね達成しており、今後は教科の学びを一層深める効果的活用へと移行し、学びの質の向上を図るため、着実に取り組みを進めてまいりますので、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

【再質問：宗形 一輝 委員】

10番、宗形一輝です。再質問させていただきます。

先ほどの教育長の答弁では、積極的に活用する段階は概ね達成できたという認識で示され、今後は教科の学びを一層深める効果的活用へ移行するとありました。

しかしながら、効果的活用という表現ですけれども、抽象的であり現場の授業において具体的にどのような変化をもたらすのか明確ではありません。

教育長が考える効果的活用とは、具体的にどのような授業形態や指導方法を想定しているのか、どの段階を指しているのか、具体的な達成目標と今後の工程についてどのように考えていますでしょうか。

【答弁：教育長】

宗形議員の再質問に御答弁申し上げます。

従前のようにキーボードを用いて文字入力したり、一斉に教師の指示に基づいて同じ作業をしたりするような活動に偏らないようにすることが重要だと考えております。既に行われてはおりますが、デジタル端末をメモやノートとして手書き入力機能を使ったり、絵や図を描いたり、カメラ機能を活用して写真や動画を取り入れ編集したり、オンラインでネットから情報を収集して活用したりと、多様なこれらの技術や情報を活用できるようさらに推進してまいります。

今述べたような技術や情報を子どもたちが共有し、学び合い、教え合うことが、今後のICT教育に求められている最重点と考え、現場への浸透を進めてまいります。

ICT端末の活用を第一と考えるのではなく、ツールとして、発達段階に応じて使いこなせるようになることが何よりも大切と認識しております。

御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

質問2 教員のICT活用力向上を

【質問：宗形 一輝 委員】

2点目の質問に移ります。2点目、教員のICT活用力向上をについて質問させていただきます。

教員がタブレットを自在に活用し、児童生徒の主体的な学びを引き出す授業を実現するためには、教員の研修や先進地視察が不可欠であると考えます。

本町においても、先進自治体や先進校への視察研修を積極的に推進し、教員のICT活用力を体系的に高める必要があると考えますが、教育長の御見解をお伺いします。

【答弁：教育長】

宗形議員御質問の2点目、教員のICT活用力向上をについて御答弁申し上げます。

ICT機器の教育的活用につきましては、議員御指摘のとおり、機器の整備にとどまらず、教員が安心して活用できる環境と、目的や段階を踏んだ研修等の充実が不可欠であると認識しております。

現在は、各学校において、校内のICT活用が得意な教員を中心とした研修開催や具体的な実践事例の共有、さらには外部の研修会への参加や活用が進む近隣校から教員を講師に迎えた研修会を開催するなど、教員のICT活用力の向上に取り組んでおります。

先進校等への視察研修につきましては、その有効性を認識しております。各学校と協議し、具体的な研修の目的、到達目標、視察成果の共有方法等を事前に明確化した上で実施を検討してまいりたいと考えております。そうしたプロセスを踏むことで、費用対効果を高め、視察の学びが各校の授業改善に結びつくものと考えております。

教育委員会といたしましては、各学校の実情やニーズに応じた様々な研修機会を提案・提供し、教員のICT活用力を高めるとともに、安心して実践できる環境づくりを進めてまいりますので、御理解御協力を賜りますようお願い申し上げます。

質問3 IT企業等との連携による教育DX支援体制の構築を

【質問：宗形 一輝 委員】

10番、宗形一輝でございます。3点目の質問でございます。IT企業等との連携による教育DX支援体制の構築をについて質問させていただきます。

今後は、Google Chrome等のクラウド環境を中心とした学習環境が標準化されていく中で、自治体単独での運用には限界があると考えます。

児童生徒の教育の平等確保、教員が安心してICTを活用できる環境整備のためにも、運営支援センター委託業務以外に、Google等のIT企業や専門業者と連携し、技術支援や研修支援を受ける体制を目指すべきではないかと考えます。

民間企業との連携による教育DX支援体制について、教育長の見解を伺います。

【答弁：教育長】

宗形議員御質問の3点目、IT企業等との連携による教育DX支援体制の構築について御答弁申し上げます。

教育DXの推進に当たっては、議員御指摘のとおり、自治体単独で全てを完結するには限界があり、民間企業等の専門的知見の活用は教育の質の向上や運用負荷の軽減に有効であると認識しております。

本年度の端末更新により、OSをWindowsからChromeへ切り替えたことで、令和8年度からはGoogleの教育向けクラウドサービスの本格活用に加え、同社や端末メーカーが提供する研修や技術支援メニューを活用できる環境が整いますので、議員から御指摘のありました専門事業者からの技術的支援や研修支援の体制が図られるものと考えております。

さらには学校現場にICT支援員を配置し、授業内での端末活用支援や教材準備、校務の効率化支援など、教員が安心してICTを活用できる環境を構築してまいります。地元事業者への保守管理委託業務以外にもGoogleや端末メーカーによる専門的サポートを積極的に活用し、ICT支援員による現場伴走と合わせた実効性の高い教育DX支援体制を構築してまいりますので、御理解御協力を賜りますようお願い申し上げます。

質問4 校内通信環境の充実を

【質問：宗形 一輝 委員】

10番、宗形一輝です。4点目の質問をさせていただきます。校内通信環境の充実について質問いたします。

町内の小学生から相談を受けました。内容は教室の通信環境が悪く、複数の教室でタブレットを使用する授業があると、通信不良により授業がたびたび中止になるとのことでした。GIGAスクール構想は端末整備だけではなく、安定した通信環境があって初めて成立するものです。

このような通信障害による授業が中断される状況が事実であるならば、教育の質の低下のみならず、子どもたちの平等な学習機会の弊害にもつながる重大な課題ではないでしょうか。

町立学校の通信環境の現状をどのように把握しているのか、教育長の見解を伺います。

【答弁：教育長】

宗形議員御質問の4点目、校内通信環境の充実をについて御答弁申し上げます。

町立学校における通信環境につきましては、一斉接続時など負荷の高いタイミングで通信遅延が発生し、授業進行に影響が出た事象があったことを確認しております。

これを受け、回線事業者の変更等の対策を講じた結果、現在は通信の不具合は解消しており、事業を中断せざるを得ないような状況は発生していないことを確認しております。

回線帯域の観点では推奨帯域を概ね満たしているものの、専用回線ではないため、利用条件や時間帯によっては一時的に推奨帯域を下回る場合がありますが、現状では授業運営に支障が生じるレベルではないと認識しております。

一方で、端末の経年劣化やストレージ容量の不足など、端末側の要因で体感速度が低下することも想定されますが、これは端末の更新により解消が見込まれます。

教育の質と学習機会の公平性を確保することは、教育委員会として最優先課題と捉えております。

今後も通信環境の維持・改善に努めてまいりますので、御理解御協力を賜りますようお願い申し上げます。